



ふじあざみ

発行
国土交通省中部地方整備局
富士砂防事務所
富士宮市三園平1100
電話0544(27)5221
http://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/
E-mail fujisabo@cbr.mlit.go.jp



間の宿・倉沢

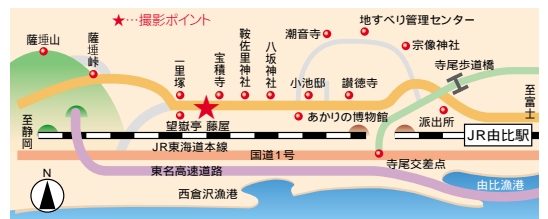
かつての東海道のたたずまいが残る「倉沢地区」

庵原郡由比町の倉沢は江戸時代「間の宿」と呼ばれ、多くの旅人が立ち寄りしました。「間の宿」とは宿場と宿場の間にあり、旅人が休憩するための茶屋などが設けられていた所です。

由比宿と興津宿の間にある倉沢は、薩埵峠を控えた間の宿として繁盛し、本陣・脇本陣の他5、6軒の茶屋がありました。西倉沢のはずれにあった藤屋の離れ屋敷から見た富士山と駿河湾の眺めは特に素晴らしかったことから、藤屋は「望嶽亭」と呼ばれ、多くの文人・墨客が訪れました。また、名物としてさざえとあわびが有名で、これを自当てに訪れる旅人も多かったようです。さざえとあわびについては、『東海道中膝栗毛』や『東海道名所図会』にもその様子が書かれています。

現在も倉沢には、²部戸なども見られ、古い街並みが残っています。街道沿いには旧家が多く、大戸、くぐり戸、格子造りの重厚な構え、石垣は百年以上たった今も変わりありません。倉沢はかつての東海道の

たたずまいが残る、江戸時代の面影が偲ばれる場所です。



由比の宿のたたずまい

由比町には、昔ながらの間取り、構造、造作等に特色のあるものが現在も残されています。

せがい造り

軒先を長く出した屋根を支えるために、平軒桁へ腕木を付け足して出桁としてかしをおいたものです。民家建築に美観を添えたもので、由比町の町並みに特に多く見られます。

下り懸魚(つけ懸魚)

平軒桁の両端が風雨による腐食を防ぐための装置で、雲版型の板に若葉、花鳥などを彫り込み装飾も兼ねています。



せがい造り



下り懸魚

1 墨客... 書画を書く人のこと。

2 部戸... 横張りの板戸を何列かにくみあわせ調節することで明かりとりや風雨を防ぐ戸のこと。

由比の基礎知識

地すべりの歴史

由比町は昔からの歴史文化が残る町であるとともに、古くから地すべりの被害をうけた地域でもあります。過去幾度となく起こった大規模な地すべり災害を受け、さまざまな対策がなされています。

地すべり5大災害

歴史に残る地すべりの中で、特に大きなものは安政5年(1858)、明治43年(1910)、昭和23年(1948)、昭和36年(1961)、昭和49年(1974)の地すべりです。

①安政5年(1858)

大雨により山崩れが発生し、多くの橋が流出しました。寺尾大沢川西端2軒と宝積寺本堂庫裡が埋没、人家17戸全壊、16戸半壊の被害を受けました。

②明治43年(1910) 「西山寺地すべり」

雨が続き、西山寺坂の上と久保田等約41町歩に亀裂や崩壊が発生し、20戸が移転しました。

③昭和23年(1948)

アイオン台風により、寺尾中ノ沢で約7万5,000m³の土砂が流出し、鉄道が7時間不通となりました。

④昭和36年(1961) 「寺尾地すべり」

寺尾中ノ沢の上部で寺尾沢と三角形をなす地塊が異様な地鳴りを伴ってすべり出し、大規模な地すべり発生しました。約120万m³の土砂が崩れ、国道1号と東海道本線の間近まで土砂が到達しました。



⑤昭和49年(1974)

七夕豪雨により由比町各地に山地崩壊、土石流、地すべりが発生しました。人家7棟が全壊、32棟が半壊、国鉄、国道が流れ出た土砂で埋没し、国道1号は23日間、東海道本線は7日間不通となる大災害でした。



土砂災害の歴史年表

西暦	発生日	概要
1662	寛文2年	薩埵峠が崩れ、1年2ヶ月不通。
1707	宝永4年10月4日	宝永地震により、薩埵峠が崩れる。清見寺も大被害。
1854	安政元年11月	安政東海地震により、薩埵峠崩れる。地盤隆起。家屋大方崩れ、死傷者多数。津波発生。
1858	安政5年6月23日	6月の大雨により、山崩れ、橋流出多く、寺尾大沢川西端2軒埋没、西倉沢宝積寺本堂庫裡埋没、人家17戸全壊、16戸半壊。
1868	慶応4年5月	降雨続き、宝積寺仮寺および寺下の11戸山崩れにより埋没。
1892	明治25年	大暴風雨により薩埵峠が崩れ、汽車埋没し、10日間不通。
1910	明治43年8月10日	雨続き、西山寺坂の上、久保田等約41町歩亀裂崩壊、20戸移住。
1922	大正11年8月26日	暴風雨のため由比駅西方に土砂押し出し、推積、汽車不通、倉沢、今宿の国道山崩れのため不通。
1923	大正12年7月	豪雨により西倉沢に土砂流出。由比駅西方に土砂押し出し、鉄道不通。
	9月1日	関東大震災により、西山寺、寺尾で地すべり。
1924	大正13年9月16日	豪雨洪水、由比駅西岸、和瀬川西岸の橋脚崩れ橋梁流出、濁り沢土砂押し出し、由比駅の貨車6両埋没。
1938	昭和13年6月	豪雨により、駅前国道土砂押し出し、交通不能。
	7月5日	薩埵山下海岸崩れ、鉄道、国道約50m埋没。
1941	昭和16年7月16日	暴風雨により、寺尾沢に土石流発生。2戸倒壊、死者6名、負傷者10数名。
1948	昭和23年6月19日	6月の豪雨により、寺尾の海拔300mの山の中部約100mのところから地すべり発生。約4ha崩壊、果樹園約20ha埋没。
	9月16日	アイオン台風により、寺尾中ノ沢で約7万5,000m ³ の土砂流出、鉄道7時間不通。薩埵峠崩れる。
1951	昭和26年6月15日	降雨により、濁り沢、今宿平、寺尾沢で約6haの地すべり発生。
1952	昭和27年3月19日	由比町で家屋20戸浸水。土砂崩れ、浸水により国鉄由比駅一時不通。
1953	昭和28年9月26日	台風により、由比町で床下浸水40戸、山崩れ発生。
1955	昭和30年8月31日	豪雨により、西倉沢、寺尾沢、寺尾橋付近に土砂流出。由比川が氾濫し、被害多数。
1957	昭和32年8月8日	降雨により、土砂流出。国道一時不通。
1961	昭和36年3月14日	寺尾地すべり発生。(幅200m、奥行き200m、深さ50m) 移動土砂量約120万m ³
1962	昭和37年6月13日	降雨により、東倉沢大畑山南斜面で小規模な地すべり発生。
1964	昭和39年3月18日	由比町松ヶ下の約30haの地域で4,000m ³ の地すべり発生。
	6月27日	豪雨により、寺尾沢、中ノ沢が氾濫。国道約200mにわたって埋没、13時間不通。
1966	昭和41年6月28日	台風4号により、由比町の県道・町道に3ヶ所の山崩れ発生。
1972	昭和47年2月1日	春雨前線による降雨により、今宿大田和地区に地すべり発生。
	7月15日	台風6号により、足ヶ久保地区に地すべり発生。風籬地区の地すべり拡大。
1974	昭和49年7月7日	台風8号の影響による七夕豪雨(風籬地区で日雨量546mm)により、由比町各地で山地崩壊、地すべり、土石流発生。人家7棟全壊、32棟半壊、国鉄、国道埋没。東海道本線7日間不通、国道1号23日間不通。

由比に暮らす

地すべりフォーラム2007 in 由比 開催報告

平成17年度に静岡県由比町において国の直轄事業として始まった「由比地すべり対策事業」や、「地すべりが日本経済に及ぼす影響」を広く一般の方に知って頂き、地域の防災意識を高めることを目的とした「地すべりフォーラム2007in由比」が、平成19年1月18日、19日に由比町で全国防災関係者や学校関係者、地域の方々など446名のご参加を得て開催されました。

1月18日(木) フォーラム
会場:由比町町民センター

研究発表「私たちが暮らす由比町」

最初に、由比小学校4年生により、総合学習で学んだ由比町の歴史、文化、産業、地すべりなど、「由比町の素晴らしさ」や「どんな町なのか」を来場者に伝えるため、各テーマで調べたことについて、その成果を発表して頂きました。



研究発表

第1部「由比ってどんなところ？」

第1部では、由比の産業や歴史、地質、また交通の要衝であることについて参加者に知って頂くため、クイズ形式で由比の解説を行いました。

解説者の方々により、由比町の地形に関する特徴や、歴史、また地すべり災害の特徴などを分かり易く解説して頂きました。

分かり易いクイズ形式で、客席にいた由比小学校と由比北小学校の児童からも歓声が上がりました。

出題されたクイズ

昭和36年に由比で発生した地すべりの土砂(約120万 m^3)は、小学校のプール何杯分でしょうか?

(答えはページ右下にあります)

- 1.約3杯 2.約30杯
- 3.約300杯 4.約3000杯

また歓迎アトラクションでは由比北小学校児童による「竹太鼓」の演奏が行われました。

第2部 パネルディスカッション

「由比地すべり対策事業のあり方」

第2部では、NHK解説委員の山崎登さんをコーディネーターに迎え、由比の歴史・文化を踏まえた「由比地すべり対策事業の今後」について、議論を行いました。

静岡大学農学部教授の土屋氏は、「豪雨や東海地震などの大規模な地震が発生した場合に由比町で想定される被害」について話され、由比小学校PTA会長の望月氏からは、「正しい防災知識を持てるように、改めて学び、知識の向上を図っていくことの大切さ」や、「災害などの事態を想定し、家族への連絡方法などについてしっかりと考え、普段の訓練に取り入れることが必要である」とのご意見がありました。また、静岡新聞社の田中氏からは、「地元のマ

パネルディスカッション

スコミとして、住民への防災意識の啓発を呼び掛けていきたい。それが新聞メディアの役割であると考えている。」とのご意見もありました。

最後に国土交通省の亀江砂防部長より「地すべりの前兆現象などの伝承・知識については、地域で共有して行って欲しい。但し、前兆現象が必ず起こるとは限らないこと、前兆現象が現れたら現場に近づかないように注意して欲しい」との指摘を頂き、盛会のうちにディスカッションを終了しました。

1月19日(金) 現地見学会

会場:薩埵峠周辺

現地見学会

当日は好天に恵まれ、わずかな時間でしたが、富士山を望む事が出来ました。参加者の方々には、薩埵峠周辺の急斜面からなる「由比地すべり」を実際に見て頂きました。また、歌川広重が描いた「東海道五十三次」と、ほぼ同じ風景が望める薩埵峠展望台などを視察して頂きました。



現地見学会

由比町に寄せる想い

七夕豪雨を振り返って

～被災者 川島廣一さんが当時の状況を語る～



川島 廣一さん

●プロフィール
社員のとき七夕豪雨で自宅が浸水するなどの被害を受ける。倉沢区長を2年勤め、現在由比町の代表監査委員

七夕豪雨の体験を教えてください。川島さん 「私が、当時35歳の昭和49年7月7日、東海地方が梅雨前線と台風8号の影響で集中豪雨にみまわれた夜の10時過ぎ頃、家の中にいても近くを流れる川に岩がゴロゴロと流れていく音が聞こえてきました。しばらくすると私の父親が『強い土のにおいがするぞ。』と言いました。この土の臭いというのが、畑の土の臭いとは違う独特の臭い

だったため不安がよぎり、警戒していました。夜が明け、雨が上がったその頃から急に土が出始めて、みるみるうちに土が川底に溜まり、川の水が溢れ、道路が川になってしまい、民家の車庫にあった車が、裏からきた水に押し流され、まるでボートの様にプカプカと浮きながら、下の方へ流れていくのを目の当たりにしました。

家は浸水し、土砂は屋根の近くまで道路に溜まってしまいました。この土砂を排土するのに2週間～3週間かかりました。当時まだ幼かった息子たちも、『あの時は怖かったね。』と兄弟で話をしています。『このように、川島さんに当時のことを振り返っていただきました。30年以上経っても、当時の状況を鮮明に語る川島さんの姿に、改めて被害の大きさ

今回伺ったお話は、30年近く前の出来事です。後に「七夕豪雨」と異名のついた集中豪雨は、500mm以上に達し、耐えきれなくなった山がすべり始めたのです。町屋原から西倉沢一帯で大量の土砂が畑を削り、民家を押し流しました。町民250人余りが、区民会館などに緊急避難しました。日本の大動脈、国道1号や、東海道本線が不通になるなど大きな災害がありました。

を知ることが出来ました。今後も土砂災害対策を着実に進めてまいります。



道路が川のようになった様子

富士山総合学習及び現地見学会結果報告

実施日	見学者等	参加人数	行事内容
1月23日(火)	富士川町立第二小学校	74	大扇状地見学
1月23日(火)	富士宮市家庭教育学級	20	事業概要説明
1月26日(金)	富士市立天間小学校	68	大扇状地見学
1月28日(日)	富士山エコレンジャー	20	事業概要説明(出前講演)
2月1日(木)	陸上自衛隊富士教導団	15	事業概要説明と大沢扇状地見学
2月3日(土)	手紙・絵表彰式富士山学習発表会	多数	第11回富士山への手紙絵コンクール
2月21日(水)	陸上自衛隊八戸駐屯地	4	事業概要説明と大沢扇状地見学

第4回 富士山土砂災害対策連絡会

2月2日(金)、(社)全国治水砂防協会主催により、富士山周辺の県、市町村参加による、「第4回 富士山土砂災害対策連絡会」が、富士宮市民会館で開催されました。連絡会では、富士砂防事務所より、「富士山火山砂防計画の基本構想(案)の概要説明」と(財)砂防・地すべり技術センターの池谷理事長による「富士山火山砂防計画の基本構想案の解説」、山梨県環境科学研究所 荒牧所長による「溶岩流の特徴について」の講演が行われました。



▲池谷理事長による講演

「第11回 富士山への手紙・絵コンクール」表彰式

2月3日(土)、富士宮市、富士宮市教育委員会、富士砂防事務所が主催する「第11回 富士山への手紙・絵コンクール」表彰式が、富士宮市民会館で開催されました。

コンクールは、国内外より多くの方々から応募頂いており、今年は、手紙部門と絵画部門をあわせて9,822点の応募がありました。表彰式では、手紙部門・絵画部門それぞれの受賞者に、表彰状が送られました。

また、表彰式に引き続いて、富士宮市内の小中学校による「富士山学習発表会」も行われました。



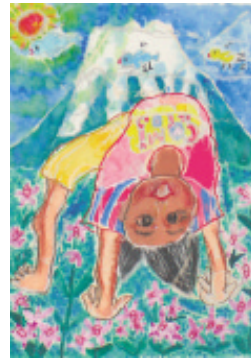
▲手紙部門の最優秀受賞者



▲絵部門の最優秀受賞者



幼児の部 最優秀作品
前島悠奈
富士宮市リーチェル幼稚園

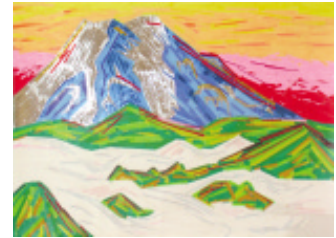


小学生低学年の部 最優秀作品
足立優奈
富士市立鷹岡小学校

手紙部門最優秀作品については富士砂防事務所ホームページをご覧ください。



小学生高学年の部 最優秀作品
山口源太
伊東市立宇佐見小学校



中学生の部 最優秀作品
青木祐輔
富士宮市立富士宮第一中学校



高校成人の部 最優秀作品
塩川美恵子
富士宮市

七夕豪雨災害写真提供のお知らせ



昭和49年「七夕豪雨」時の由比町内の様子

本号「由比町に寄せる想い」にて、被災当時の状況を語って頂いた由比町在住の川島廣一様より、「七夕豪雨」に関する写真を提供して頂きました。ありがとうございました。



「富士砂防事務所インフォメーション」

～FMラジオにて情報発信中～

Radio 84.4fm Radio-f(ラジオエフ)



～富士山の基礎知識、富士砂防事務所が開催するイベント情報、防災情報等～
コミュニティFM「Radio-f」(84.4MHz) 毎週水曜日 17:40頃から5分間
「富士山について、こんな話を聞きたい」といったリクエストやお便りを募集しています。
宛先など詳しい情報はラジオホームページ(www.radio-f.jp)より、「富士砂防事務所インフォメーション」係までお願いします。

国土交通省富士砂防事務所

〒418-0004 静岡県富士宮市三園平1100
担当/総務課長・小川、または調査課長・石原まで
TEL.0544-27-5221

インターネット <http://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/>
E-mail fujisabo@cbr.mlit.go.jp

富士宮砂防出張所
〒418-0103 静岡県富士宮市上井出1321-9
TEL.0544-54-0236

「ふじあざみ」に掲載している内容・データ等は、現時点までに得ている調査結果を基にしています。今後の調査等の進展により、内容の一部または全部に変更が生じる場合もあります。

私が担当しています

用地課 山田 雄介



地すべり対策事業の用地について担当しています。地すべりフォーラムにスタッフとして参加しました。全国色々なところから多くの人に来ていただき、由比の地すべり事業を知ってもらう良い機会になったと思います。2日目の現地見学会では、白い富士山が薩埵峠から見え、とても印象的でした。

※本誌は再生紙と環境にやさしいインクを使用しています。